

山行報告

★ 三室山山行に参加して

高橋

三室山山行当日の朝は、前日の雨風もすっかり回復し良いお天気に恵まれました。

三室山までの道中、山桜や菜の花があらこちらで見られ、春の訪れを感じました。

今回の山行は、雪上でテントを設営する予定になっていますが、果たして雪はあるのか少し心配になりました。

登山口に到着しても、雪はうっすらと積もっている程度でした。ストレッチをして出発。登るにしたがって雪景色になりましたが、それでも、5～6センチでしょうか。

もっと雪が積もっていたならば、キックステップで雪を踏みつけながら登るのは、倍程の体力を要して大変だろう等と考えながら登りました。時々、木に積もった雪がさらさらと落ちてきてきれいです。

鳥の鳴き声が聞こえて、一足早い春のようでした。三室山にはコマドリがいるそうです。帰宅後、図鑑で見るとオレンジ色の小さな可愛いらしい鳥でした。鳥や植物の知識があれば、山ももっと面白くなるだろうと思います。

岩場では、ザックの腰ベルトがゆるんでいたせいか、荷物が振られるのを感じました。岩場を過ぎると笹漕ぎです。背丈以上の頑丈な笹と格闘するようにして、通り抜けると山頂に到着です。

山頂からは、氷ノ山や那岐山・笠形山が見えました。山々の稜線がきれいです。山

頂には、案の定ほとんど雪はありませんでした。大瀬さんがテントなどの重い装備を背負って登って下さいましたが、テント設営は中止となりました。しかし、昼食は雪を溶かした湯で、松下さんが用意くださった、具たくさんラーメンを作り、おいしく頂くことができました。本当の雪山では、調理ひとつでも苦勞が多いという話も聞きしました。

普段、便利な生活に慣れてしまっているので、雪山でのテント生活は大変だと思いますが、一度は体験してみたいです。

下山時は、雪解けの泥で足元がゆるく、何度も滑りそうになりました。また石の多い所も歩きづらく感じました。

下山後、温泉に入浴して帰路に着きました。三室山周辺は、アマゴ釣りや、ハンググライダー、山菜取りなどが楽しめるそうです。のどかで何となく懐かしさを覚えるいい所です。

今度、雪山で実際にテント泊をするならば、かなりの体力や技術が必要になると思いました。なかなか実践できませんが、体力トレーニングや技術習得など、日頃から出来ることを少しずつやり、前進していかなければと感じています。

城山（中道子山）

日時：3月22日（月・祝）

参加者数：23名

参加者：A班—L：舛賀 SL：待場

阿蘇・足立（光）・足立（美）・北村・切貫・澤田（卓）・澤田（律）・森永・森川・渡邊（俊）

B班—L：上田 SL：貝塚

内海・貝塚（陽）・狩集・北川・塩津・荘所・中嶋・山崎・渡邊（健）

行動記録：権現第一ダム（西側）9：00（ストレッチ）—9：20～城山登山口10：20～城山11：00（昼食）11：45～登山口12：50～あずまや13：

45～権現第一ダム14：40

★ 赤松城と権現ダム

阿蘇

3月22日(春分の日の振り替え休日)は晴天。前日は、中国大陸からの黄砂で視界が悪く寒かった。翌23日は雨が降った。もし、この日に雨天決行したら、しんどい山行になること間違いなし。しかし山遊会では雨が降っても必ず決行するだろう。山の天気が悪天候でも、山行を続けなければならない場合がいくらかもある。だから、多少無理でも決行される。そんな事情が、高い山を目指していない私には嫌である。

ともあれ前後の悪い天候の谷間の素晴らしい好天日和に、この山行に参加した。

権現ダムの西の駐車場を、9時20分に出発する。俗に志方の城山と呼ばれている赤松城址(標高271m)に登り、下山してから一周約10kmの権現ダムを周回して、駐車場に戻ってくる、延べ5時間の行軍である。終わってみれば、よく耐えて歩いたと満足感に浸れる山行だった。

頂上一帯は赤松円心一族の居城であったが、天正年間に羽柴秀吉により落城した。又の名を中道子山城跡と云う。播磨の国の

守護、赤松氏範(氏則)により康暦年間(1379-1381)に築城された。本丸・二の丸・三の丸・大手門・櫓門の土塁が残り、米倉跡もあり、近世城郭への移り変わる過渡期の姿を留めている。

東播磨最大の66,000 m²の広さとか、本丸に



は赤松城址の碑があり一等三角点もある。

桜の名所でもあり、台地一帯は四国八十八ヶ所霊場巡りコースともなっている。

今回の山行も、一人ではなかなか実行できないコースを発案していただき感謝しています。



山頂より南側の眺望：権現ダム湖が光って見える。

丹生山縦走

日 時：3月28日(日) 参加者数：19名

参加者：A班—L：山本 SL：貝塚

大谷・金島・河合(信)・砂川(美)・中嶋・長谷(孝)・山崎

B班—L：西村知 SL：竹内

阿蘇・井上・貝塚(陽)・狩集・河合(由)・荘所・三木・森川

行動記録：サイクリングセンター9：40～丹生山10：40—10：50～帝釈峡11：30—12：00～岩谷峠12：45～双坂池13：00～稚児ヶ墓山13：25—13：35～肘山～箕谷グリーンスポーツホテル14：50—16：30～宝殿17：40

★ 丹生山縦走

梅雨のような雨が降り続いていたのが、やっと晴れ間を覗かせてくれたが、曇っているのか、春霞が架かっているのか、あいまいな天気の中を出発する。2～3日前に腰を痛めて今日は止めようかなと思っていたが、痛み止めを飲み、腰にバンドをして、万全の態勢（少し大げさかな？）で参加した。

バスで休養村管理センターに9時半頃到着。その近くに日本最古の民家（箱木千年家）があったので少し見学してみたかったが、すぐストレッチをして9時40分に歩き始めた。

落葉樹と常緑樹の入り交じった林の中の道を歩く。

若葉・青葉には少し早かったが、うす紫の山ツツジが咲いていた。足元には沢山の枯葉が柔らかいクッションとなり、不安を抱えている私の体には優しい道程だった。1時間ほ



ど歩いて、丹生山頂の丹上神社に到着。

「今日は無事に歩けますように。」と、お賽銭を入れてお参りをした。

木立の中を歩くので、夏に来ると暑いだろうなどと話しながら、1時間ほど歩いて帝釈山に着くと、パッと展望が開け瀬戸内の大パノ

ラマが！しかし少し霞んでいたもので、もう少し晴れていれば、もっと素敵だったろうなあ。

昼食後、また林つづきの丹生山縦走ルートを歩き、稚児ヶ墓山～原野へと、今日も無事歩けた。

余談になるが、枯葉を見るとネパールのトイレを思い出す。

小屋の中の床を切った穴の前に、落葉がいっぱい積んであり箒が添えられている。用が済んだら落葉を箒で掃き落とすので、臭いもしないし下に堆肥が出来る。これを畑に施すそうだ。

天下台山から御津へ

日 時：4月4日（日）

参加者数：17名

参加者：L：砂川 SL：山本 阿蘇・足立（光）・足立（美）・井上・大谷・金島・

狩集・北川・澤田（卓）・澤田（律）・長谷川（孝）・待場・山崎・和田・渡邊（俊）

行動記録：岩尾谷公園「北尾根コース」8：50～とんび岩9：10—10：10～天下

台山10：20～馬場坂地蔵10：30～野瀬奥山10：50—11：50～雄

鷹台山（昼食）12：15～鳩ヶ峰12：30～室津13：08

★ 御津アルプスと祭り

足立

天候にも恵まれ楽しい山行となった。季節柄、桜や梅が花を咲かせ目を楽しませてくれた。近隣の山行に参加するたびに、普段気づかないだけで、身近に素晴らしい所が色々あるものだと、嬉しさと驚きを感じる次第である。

早く一人前になり、自力で山行計画を立て、近場の山に登れるようになりたいもの



である。それなりの勉強をしていないので、少々おこがましい話だが・・・

天下台山頂からの眺めも新鮮であった。東には高御位山が、西には小豆島が展望できる。私の感覚では、高御位山はもっともっと遠方で、目視など出来るとは思いもよらなかった。何やら距離的な尺度がぐっと縮まり、良い意味で、播州地方が少々狭くなった。

さて予定の行動とは云え、室津への到着がこれまた絶妙であった。「小五月祭り」の始まりに、どんぴしゃりのタイミングで、祭りの最初から参加する事が出来た。

観光化されていない地域の祭り事の原型を見せてもらえてとても良かった。また、鳴り物や唄（唄と言ってよいのか分からな

い）も西洋音階に毒されず、伝承されてきた音程で奏でられていたのも、嬉しいことであった。

祭りの一行の後を追うように、賀茂神社を訪れたが、これが立派な神社なのには驚いた。

室津の間口の狭さからは想像できない規模である。国の指定文化財であるのが頷ける。

これからも山行を機に、西国の様々な文化に触れる事が出来ると思うと楽しみである。

内容の濃い楽しい一日であった。

* 小五月祭り * * * * *
* * * *

賀茂神社の例祭として、春に開催されます。

同じ例祭の「夏越祭り」が男の祭りであるのに対して、「小五月祭り」は女の祭りです。

この祭りは、平安後期に室津の長者の娘が、賀茂神社へ棹の歌を奉納したのがきっかけです。今でも、女の子はきれいな衣装を着て、棹の歌を奉納します。「棹の歌」は兵庫県重要無形民俗文化財です

むかいやま

向山（丹波市）・・・女性委員会主催

日時：4月17日（日） 参加者数：15名

参加者：L：西村 SL：澤田 足立(美)・尾内・大谷・貝塚・金島・狩集・
北川・切貫・砂川（美）・開・待場・松尾・森永

行動記録：高砂7：30～宝殿8：00～観音堂登山口10：15～岩坐展望所11：10－
11：20～松の台展望所11：30～向山三角点12：00－12：30～五の
山12：45～蛙子岩展望台13：00－13：10～珪石山13：30～清水山
13：45－13：55～鳳翔寺登山口14：50～入浴15：15－15：50
～高砂17：50

★ 春うらら 花に誘われ 向山

北川



昨夜はどしどし降りの雨で心配したが、今朝起きると天気は良し、快眠・快食・快便で、バンザイ！と家を出る。2名が諸般の事情で急に来られなくなって残念。

向山は、いくつかの山々（一の山～五の山～珪石山～清水山）が連なった連山で、最高は五の山で、標高591m。登山道が整備され「水分かれ公園」を中心に周回する。標識も各所にあつて迷うことはない。

ここの分水界は標高95mと日本一低く、北は日本海 由良川へ、南は瀬戸内海 加古川へ流れているようだ。ゆっくり目で確かめる時間が無く、心残りがする。

いきなりの急登で汗をかき、竹の子のように服を脱いでいく。この山でしか見られない絶滅保護品種のヒカゲツツジの花を見たいとて、私達の他にも、たくさんのグループが列をなして登ってくる。

昨夜の雨でぬかるんだ粘土質の坂道は滑りやすく、元気なリーダーが、「先を歩かないと不利だ。」と急がせる。私はストックにすがり、ふうふうと追っかける。

さてさて、お待ちかねのヒカゲツツジの花だが、滑らないよう用心して足元ばかり見ていたら、「ほれ、これがヒカゲツツジよ。」と云う声がして、えっ？と目を上げると道のすぐ横に、うす黄色した3～4cmくらいの花が、かたまって咲いていた。

なるほど花の姿はツツジ科とうなづけるが、葉はシャクナゲにそっくりだ。

道々に見てきた、ぱあっと明るいピンク色のミツバツツジとちがい、非常に慎ましく

地味で、云われないと最初は見過ごして通ってしまいそうな感じだ。

ヒカゲの名が付いているが、やはり日がよく当たっている場所の方がきれいに咲いていた。私の背よりもやや高い木で、坂道の上から振り返って眺めると、花嫁のブーケのような楚々とした美しさに思えた。

どうして向山だけにしか群生しないのだろうか不思議だ。他所で挿し木しても育たないわけは何かしら？

ともあれ、満開のヒカゲツツジのトンネルに



迎えられ、うっとり、ほっこり、とても心地よい気持ちで歩を進める。植物の名を教えてもらっても、なかなか覚えられないが、ヒカゲツツジは印象深く心に刻まれ、忘れることはないだろう。

女性委員会主催の山行は、あちこちから、お菓子が回ってきて、辞退する意志の弱い私は全部いただき、ほぼ5時間の中級向きのこの山行でも、決して痩せられないなあと思った。

昼食後も、連山縦走だから、下り一辺倒ではなく、アップダウンが6回もあつて、結構歩き応えがあつたが、彼女たちの元気な逞しさに感嘆する。

リーダーは下見もされたとか、素敵な花を、いい時期に案内していただき、とても幸せな一日だった。ありがとう。